２０１８年（平成３０年）９月２３日　日曜日

東奥日報　１３面　掲載

光星、弘東 東北切符

秋季 県高校野球

第４日

秋季県高校野球選手権は第４日の22日、弘前市のはるか夢球場で準決勝２試合を行った。八学光星と弘前東が勝ち、３枠ある東北大会出場の切符を手にした。八学光星は初回に４番近藤の二塁打などで３点先制。四回は打者18人による猛打で大量13得点、17―１の五回コールドで青森山田を圧倒した。弘前東は初回、四球などからチャンスをつくり４点を奪い、中盤には足を絡めた攻撃で加点。九回にも２点を入れ８―３で八戸工を破り、昨秋から３季連続の東北大会出場を決めた。23日は八学光星と弘前東が頂点を懸けて対戦、３位決定戦では青森山田と八戸工が東北大会出場の残り１枠を争う。（本紙取材班）

きょうの試合

（上のチームが一塁側）

◇はるか夢
▽３位決定戦
青森山田―八戸工（10・0）
▽決勝
八学光星―弘前東（12・30）

光星 ４回猛攻13点

山田高 3安打に沈む

▽準決勝（はるか夢）

青森山田	3	0	0	0	1	3	1	×	17
八学光星	3	0	1	1	3	0	0	×	1

（五回コールド）

（青）堀田―工藤黎
（八）後藤―中澤
▽三塁打 中澤（八）▽二塁打 風穴、山本（青）近藤、伊藤、武岡、中澤、下山（八）
▽暴投 堀田（青）

【評】八学光星は３点リードで迎えた四回裏、９番中澤の三塁打から長短５連打で４得点。その後も敵失や四球を絡めて計13点を奪い、この回だけで打者18人10安打の猛攻で青森山田を寄せ付けなかった。

青森山田は先発堀田がつかまり被安打14で17失点。打線も３安打に沈み、四回に１点を返すのがやっとだった。

光星打線に「威圧感」

○…青森山田は四球や守備の乱れがことごとく失点につながった。四回に13点を失うなど、ライバル八学光星にまさかの五回コールド負けを喫した。主将の工藤黎は「やるべきことができないまま終わってしまった。守備からリズムをつくらないと攻撃に生かされない」と厳しい表情で話した。

マウンドで苦しい投球が続いた先発堀田は「インコースを攻めたがストライクが取れず、カウントを取りに行った球を狙われた。相手打線は切れ目がなく、威圧感がある打者がそろっていた」と唇をかんだ。

23日の３位決定戦に東北大会出場の切符を懸ける。工藤黎は「大敗してしまったが、しっかり切り替えて臨みたい」と前を向いた。

打者2巡 反撃意欲断つ

【青森山田―八学光星】４回裏、八学光星２死二、三塁、この回２巡目の伊藤が２点適時打を放ち13―１。捕手・工藤黎

17―１の圧倒的なスコアで、八学光星はライバル・青森山田ナインに力の差を見せつけた。

圧巻は四回。打者18人を送り込み、10安打13得点のビッグイニングをつくった。口火を切ったのは、今大会初のスタメンマスクをかぶった１年中澤。２年の正捕手・太山がけがで出場できず「チャンスだと思った」と奮起。カウントを取りにきた甘い球を見逃さず右中間三塁打で出塁した。

ハイライト

続く１番伊藤は、けがから１週間ぶりとなる復帰戦で「気合は全開」だった。犠飛狙いだったが芯で捉えた打球は左越えの適時打に。火が付いた打線は５連続安打と連続四球で７人連続出塁の後、犠飛を挟んで、再び８人連続出塁。打者２巡の怒濤（どとう）の攻めで青森山田の反撃の意欲を断ち切った。

これで青森山田戦は、３戦連続のコールド勝ち。仲井監督は「勝てて良かった。先制を取れたのも良かった」と振り返りつつ「（次は）雑にならないようにしたい」と、３年ぶりの頂点へ、かぶとの緒を引き締め直した。（秋村有香）

【八学光星】

	打	安	点	振	球
伊藤	3	3	3	0	0
島	2	1	1	0	2
武岡	4	2	1	0	1
藤	2	1	1	0	0
原	2	1	1	0	1
山本	2	1	0	0	0
近藤	2	1	1	0	0
工藤黎	3	1	1	0	1
残	0	0	0	0	0
5	25	11	9	0	5
打	安	点	振	球	
18	3	5	0	1	

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです